

# アグリスクールを目指して(平川市)



## 1 取組主体

名 称：平川市平賀地域食育推進協議会  
担 当 者：平川市農林課 小野  
住 所：平川市猿賀南田15-1  
電 話 ・ F A X：電話 0172-44-1111(内線 2172) FAX0172-43-5005  
団体構成者・団体：ひらかわグリーン・ツーリズムネット、平川市、J A 津軽みなみ P T A、竹館小学校

## 2 地域の特徴

平川市の平賀地域は、農業に適した肥沃な土壌地質であり、平坦地、丘陵地(台地)、山間地の3つに区分される。平坦地は水稲地帯、丘陵地は水稲とりんごの複合地帯、山間地では肉用牛牧場と高冷地野菜団地が存在している。

## 3 開始時期と経緯・活動の動機等

平川市は近隣市町村と広域で、グリーン・ツーリズム(修学旅行生の農作業体験受入)を実施している。しかし、地元の子どもたちへの体験については、以前、平賀地域でおこなっていた「子どもたちの体験農業」以来、学校教育の現場に任せている状態である。このため、地元住民(主に幼児・小学生を中心に)に食物を育てる難しさや成長する楽しみ、収穫してからの調理実習等を通して、農業の重要性や食の大切さを教えたい。

## 4 活動目標

- ・ 20年度のアグリスクール開設を目指し、19年度はモデル的に事業展開する。
- ・ 地元住民に地域の農業について理解を深めてもらうこと。
- ・ 食の大切さを知ってもらい、地産地消と食育について関心をもってもらうこと。
- ・ 食育の指導者(食育インストラクター)を養成すること。

## 5 活動概要

地元の農家と住民の交流を通じ行政等の関係機関と連携を図りながら、地元の幼児・小学生を中心に、食物を育てる難しさや成長する楽しみ、収穫してからの調理実習等を通して、農業の重要性や食の大切さを教える。

## 6 活動内容

- ・ 年間事業計画検討会議(5月12日)
- ・ 竹館小学校へ事業説明(5月10日)
- ・ 食育推進会議にて事業計画案報告(7月4日)
- ・ 中間事業報告及び事業打合せ(10月7日)

### (1) 7月1日(日)

竹館小学校のPTAスクールに、食育宣伝隊が来校。  
保護者と児童を対象に、食育の講話と箸の正しい持ち方を指導。



### (2) 7月22日(日)

農作業体験～半日のファームステイ～

参加者 免許取得合宿に参加している生徒1名(60代)  
自動車学校の経営者

指導者 古川寛三氏(平川市館田:古川農園)

市内の自動車学校より、合宿免許に参加している生徒の受入依頼があり、初めての試みということで、生徒と自動車学校の経営者が参加し、ミニトマトの収穫・ハウスや作業場の見学・昼食までを農家で過ごした。

自動車学校では、生徒の希望があればホテルだけではなく農家民泊や農作業体験をさせたい意向があって当会が受入することとなった。

### (3) 7月28日(土)

野菜の勉強会～トマトをもっと知ろう～

参加者 県内の小学生～高校生 25名

指導者 古川寛三氏(平川市館田:古川農園)

サマーキャンプ中のカリキュラムに農業体験を入れたいとの要望で実現。

古川氏が、トマトの栽培から出荷の流れ等を作業場で説明したあと、ハウスへ移動して収穫体験。色がきちんと着いているものを選んで収穫するように支持し、子どもたちは、ゆっくりと選びながら丁寧に収穫していた。



初めて見るハウスの大きさに驚く子、トマトが苦手な子でも収穫してすぐに食べると「美味しい」と言ってくれたり、スーパーのトマトは美味しくないけど、ここのトマトは美味しいという子ばかりでした。収穫後は、とれたてのトマトを使ってサラダを作って食べるということでした。



**(4) 8月4日(土)**

畜産の勉強会 ~ 牧場へ行ってみよう ~

参加者 竹館小学校5年生と保護者 56名  
指導者 谷川信秀 氏(平川市津根川森)

8時半に小学校からバス2台で出発し、約1時間後に牧場へ到着。保護者と児童は別々に乗車し、食育宣伝隊(1名)が往復別のバスに乗り、食育の講話やクイズ等で盛り上がった。



苦労や出荷時の別れる寂しさ等について話があり、児童は感動しながら熱心に聞いていた。

牧場見学後、牛舎へ移動して生後10日ほどの子牛から出荷直前の成牛を見学した。

小学校へ帰って、児童からの感想を聞いた後、谷川氏より仕入れた肉を使ってバーベキューパーティをした。この時も、箸を上手く持てない児童へ食育宣伝隊が丁寧に指導してくれた。



**( 5 ) 9月30日(日)**

炭とりんごの勉強会 ~炭焼きとりんごもぎ~

参加者 竹館小学校 2年生と保護者 24名

指導者 石山順子氏(平川市尾崎:豆石)、三浦藤市氏(平川市沖館:三浦りんご園)

白岩森林公園にある釜を利用して、石山さんの指導のもと炭焼きに挑戦。

松ボックリや栗、どんぐりなどの材料を集めて缶に敷き詰め、火の中へ。

完成までの間、炭の効能の話や散策、石焼いもも楽しむことができました。



次に、場所を移動して三浦りんご園へ。りんご園では三浦藤市氏が、りんごの栽培方法ともぎとり方の指導をし、りんごもぎを体験。



その後、試食する際に、りんごの検査の話や糖度を計って、みんなに見てもらいました。

**( 6 ) 12月9日(日)**

お米を使った料理 ~巻き寿司に挑戦~

参加者 竹館小学校 高学年40名、保護者6名

指導者 長谷川修氏(大前寿司店主)他2名

米の消費拡大と、家族で楽しんで料理できるように巻き寿司づくりに挑戦。最初は上手く巻けずに苦労していて、太さがまちまちの巻き寿司でしたが作るうちにだんだん上手くなっていき、できたてを試食しました。

また、魚のさばき方の実演も行い、児童たちは真剣に見入っていました。

この日はPTAまつりも開催されており、食育に関するパネル展示や来場者へクイズ形式のアンケートも実施しました。



## (7) 2月22日(金)

### 食品添加物に関する講演会

演題：「食品の裏側」 食の本当の豊かさとは？

講師：食品ジャーナリスト 安部司 氏

食品添加物の神様と異名をとる食品ジャーナリストの安部司氏を招聘して、講演会を開催しました。食品添加物の現状、食生活の危機を訴えた著書「食品の裏側」は70万部を超えるベストセラーとなり、大きな反響を呼んでいます。

主催の平川市認定農業者連絡協議会に協力して事業を行うことになり、主に農業・食育・教育関係者を対象にチラシ等を配布して、当日は約500名の方が来場しました。

安部先生は、最近問題となった冷凍食品等のこともあり通常は講演時間90分のところ、2時間に亘って講演してくださいました。添加物の実験や先生の話し方に魅了され、出席した方々は長時間の講演にも関わらず最後まで熱心に聞き入っていました。

もう、カップラーメンを食べられない、コンビニへ行けない、冷凍や加工食品はあまり買えない等の感想をもらしている方がたくさんいたこと、もっと多くの人にこの講演を聞いてもらいたい、とても良い勉強になったとの声を聞くことができました。

## 7 これまでの成果

### アンケート調査の実施

実際に参加した竹館小学校の児童及び保護者を対象にアンケートを実施した。

また、12月に行われたPTAまつりの際には、来場者を対象に食育に関する知識がどれだけあるかのアンケートを実施。

#### < 児童へのアンケート結果 >

嫌いな食べ物	なす・ピーマン
給食が好き	78%
朝食はごはん	65%
ごはんを嫌いな子はいない	

#### < 保護者等へのアンケート >

食料自給率を知っている	32%
世界の餓死人口を知っている	14%
「食育」の意味がわからない	56%
食材の旬や調理法を知りたい	51%

## 8 課題・今後の構想

### (課題)

アンケートにより、食育の知識・認識不足が顕著であるという結果が出た。

特に、10代～30代の子どもを持つ親に知ってもらいたいと痛感した。小・中学生は学校教育の中で学ぶことができるが、社会人には、食育について学ぶ機会が少ないと思われる。

### (今後の構想)

以下、アグリスクール開設に向けて考えた児童・生徒用の年間プログラム例である。

- 4月 スクーリング「親子いっしょに旬のものあてゲーム！」…土の役割
- 5月 田植え オリジナル・レシピづくり（カレンダーづくり）…田の役割
- 6月 山菜採り（初夏） 旬の料理体験 ジューン・ドロップ
- 7月 日本の食事マナー（知覧のお茶）トマトの採りたてを味わおう…水の役割
- 8月 酪農体験（平川の肉牛）オリジナル・レシピづくり …循環式農業の実態
- 9月 山菜採り（秋） 旬の料理体験 …食可能の見極め
- 10月 りんごもぎ りんごまるかじり&りんごを使った料理体験
- 11月 （事前に稲刈り）新米でおにぎり 米の食べくらべ体験 わらの用途
- 12月 炭焼き体験 日本の食糧事情…飽食・むだづかい
- 1月 食文化フォーラムへの参加（販売体験） 雪の中のりんごの木
- 2月 大豆から何ができる？（味噌・豆腐作り体験）オリジナル・レシピづくり
- 3月 自分（達）の作った料理でもてなそう！修了（認定）式

当初は、児童・生徒を対象に開設したいと考えていたが、アンケートの結果等から、一般からも広く公募し、年間を通して活動できるプログラムを再構築したいと考える。また、アグリスクールを開設するのは、当推進協議会の母体でもある「ひらかわグリーン・ツーリズムネット」が地元で食育活動を展開していく予定である。

## 9 助言者からのアドバイス

- ・子供の自発的な活動を意識し、気付きを促す取り組みが効果的である。
- ・地元の良い物を、地元の人を知るきっかけづくりになればよい。（良いものになると、地元で手配できない。）
- ・食品添加物＝悪いもの。とするだけでなく、なぜ、使われるのか、無くても良いのか。メリットとデメリットを知り判断する力をつけること。（使いたくないが、使わなければならないこともあるのではないか。）
- ・今回の取り組みを、次回への取り組みに繋げてほしい。（グローバルな視点が入っている事が良いと思う。）
- ・国では教育ファームを推進しており、事業の活用の可能性がある。